2024 年 12 月 21 日 全国川ごみサミット資料
一般社団法人 JEAN

被覆肥料の漂着確認などの初期の経緯

◆漂着確認の背景
・JEAN では 1990 年から全国クリーンアップキャンペーンを展開し、通年で『ICC データカードを使った調べるごみ拾い』への参加を呼びかけ、全国のキャプテンから共有された漂着ごみ等のデータを蓄積している。
・ごみを調べることで、新たなごみが見つかる場合がある。

◆2001 年被覆肥料の初確認
高知県のキャプテンから「レジンペレットのような謎の粒」を見つけたとの連絡。
→送付された実物を東京水産大学（当時）の兼廣春之教授に見てもらう。
→発見場所で漂着の状況を確認、植物の根元に溜まっていた。
◎兼廣春之研究室で分析、中空のポリエチレンと判明。

◆2002 年　愛媛県のキャプテンからも発見連絡があり、兼廣研究室で分析の結果、中空ポリエチレンであった。

◎プラスチック工業連盟に照会し、「被覆肥料（徐放性肥料、緩効性肥料）の殻」と判明。
◎2002 年 10 月　販売企業の担当者と面談し、被覆肥料の特徴、使用状況、海岸への漂着についての認識、今後の対策などについて説明を受ける。

→機関紙に経緯を掲載して紹介し全国のキャプテンなどに報告。
→見たことはある、海岸に行ったら注意してみるなどの反響多数。
全国で報道相次ぐ。
業界団体の日本肥料アンモニア協会との面談を実施。
協会でも海岸に漂着していることを認識し、流出防止や被膜の材料の変更検討などを考えていくとのことであった。

→発見から 20 年以上が経過したが、現場の改善は実現していない。